

(KJK 論文コンテスト応募)

私が考える健康住宅とは

私が考える「健康住宅」は「丈夫で、安全で、長持ちし、楽しく、快適に住める住宅」です。

しかし、住宅より前に、先ず、私が最も大事だと思うのは立地です。どんなに立派な住宅でも大雨が降るとスグに水浸しになる地域や、がけ崩れ、崩壊、陥没などが発生する危険な場所、地震で沈降や液状化が起こる弱い地盤のところではどうなることか分からず不安です。

そして、私が考える「健康住宅」は家自体は当然のことですが、地震で潰れたり、雨風で屋根やかわらが飛んだり、雨漏りなどのない丈夫で長持ちする安心な家です。

次に重要なのは「健康住宅」の最低条件であるシックハウスの要素のない安全な家です。もう、最近ホルムアルデヒドが発生する家なんかは売っていないのでしょうかシックハウスはゴメンです。

その次に重要なのが家族が安心して楽しく快適に生活できる空間を確保することです。家族が楽しく住むためには、多少のプライバシーが守れる家族数分の個室と一家が集まって食事や団欒ができる大広間は必須です。欲を言えば、大きくなって家を出た子供の家族が帰ってきた時や、たまには訪ねてくる親しい気の置けない友人を泊めることのできる部屋と客用のトイレ・浴室が欲しいと思います。老後の生活のために介護関係の設備の必要性も考えられますが、その時は老人ホームに移るオプションもあり、これは好みの問題かと思えます。

そして私の経験から得たもっと大切なことは、家の中ではなくて、家の外の、普段は楽しいおしゃべりや近所付き合いが出来て、いざという時には助け合いも出来るよい隣人とコミュニティーに恵まれることです。

最後に、少しミエを張れば、街並みが素敵で魅力的であれば私の考える「健康住宅」にピッタリです。

私が育った子供の頃の昔の家では、冬は寒く夏は暑くてそんなに快適ではありませんでしたが家が原因で病気になるなんて想像したこともありません。

確か、近くの水はけの悪い低地に建っていた家では湿気が多くて屋内がカビ臭く、家族に病身の人がいましたが、湿気の所為か、それとも家とは関係のないその他の理由によるのかは今となってはわかりません。

昔は飲み水やトイレなどの非衛生さによる健康被害が専らだったような気がします。

現在の我が家は、40年前に鉄骨プレファブで新築しましたが、建設当初は、当時の新築住宅には付き物だった新築特有のホルムアルデヒドの臭いがしていたような気もしますが、建物は最近の新築ほど気密度が高くなかったので多少の通気が幸いしたのか、両親譲りの強力な免疫力に護られたのかは分かりませんが家族には何ら健康上の問題は発生せず、今では内装材もすっかり枯れてもう化学物質発生の懸念はありません。上下水道は最初から完備していたので、安心な水が飲め、トイレも水洗で衛生面の心配もありません。

数年前にリフォームした際エアコンを更新し、床暖と温水便器をとりつけたので毎日快適な生活を送っています。南面は庭に面して大きな掃出し窓があるので、冬は暖かく明るい日照の下で読書や家事が出来、夏は2階の幅の広いベランダが日除けとなり、庭木も背が伸びて暑さが和らぐ気がします。季節毎に草花の種を蒔いて苗を育て、隣人と分かち合って、その成長を楽しむ時間は何事にも変えがたい貴重なものです。我が家にはホームセキュリティーの設備はありませんが近所の目がカバーしあって不安がなく、良きコミュニティーの中に住める幸運を感謝しています。

私が考える「健康住宅」はハードウェアとしては丈夫な構造と寒暖と雨露をしのぐ機能を持ち、健康に害を与えるものでなければ十分で、健康増進や快適な生活は住宅に高度で精緻な設備やソフトがなくても、健全な心と良き隣人に恵まれれば作り出せるものと信じています。

2009年9月 吉田直枝